

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 27 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24616001

研究課題名(和文) 障害者ケアの包括的な保障のために ケアワーカーのウェルビーイング支援システム開発

研究課題名(英文) Development of support system to promote well-being of care workers - for the comprehensive security of care services for persons with disabilities -

研究代表者

武田 文 (TAKEDA, Fumi)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：80216902

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：障害者ケアワーカーの離職防止と良質なケアサービス保障のために、身体障害者施設職員と知的障害者施設職員のウェルビーイングに関わる心理社会的要因を検討した。いずれの施設でも、職員の抑うつと仕事満足感に関わる主な要因は、若年齢、役割曖昧感、上司のサポートであったことから、障害者ケアワーカーのウェルビーイング支援には、若年職員の個々の業務内容の明確化、キャリアパスが見通せる人事体制の構築、上司によるサポートの充実が最も重要と考えられた。

研究成果の概要(英文)：In order to prevent resignation of care workers for persons with disabilities and to promote safe and high quality care service, the present study aimed to investigate psychosocial factors related to well-being of the staff at nursing homes for aging adults with physical disabilities and those with intellectual disabilities. Among both of them, younger staff, role ambiguity, and social support from supervisors were main factors of both depression and job satisfaction. These findings suggest that the clarification of each young staff's role, the human resource management enabling foreseeing career paths, and the improvement of social support from supervisors are primary to promote well-being of care workers for persons with disabilities.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：身体障害者施設 知的障害者施設 ケアワーカー 抑うつ 仕事満足感 職業性ストレス ソーシャルサポート

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 急速な高齢化に伴い、我が国の社会福祉施設従事者は平成16年の72万人から平成20年には78万人に増加してきた。障害者の高齢化・重度化も急速に進んでおり、身体障害者では認知機能障害・精神障害を併せ持つケースも多く、質・量ともに高いケアサービスが必要となってきた。また、障害者総合支援法の施行により、障害者が自立生活を営む上でのケアニーズが増加することが予想され、障害者ケアサービスを保障する人材確保は喫緊の課題となっている。

(2) 他方、社会福祉労働者に関しては、対人ケアサービス業務によるストレスやメンタルヘルスの問題、労働環境、人間関係などにかかわる仕事満足度の低さが、かねてより社会問題とされており、これらが人材不足やサービスの質の低下の大きな原因となってきた。メンタルヘルスや満足感などの主観的な“ウェルビーイング”は、WHO憲章による健康の定義に含まれており、ケアワーカーのウェルビーイングを保持増進することは、良質なケアサービスを保障する人材確保の前提条件といえる。

(3) しかし、ケアワーカーのメンタルヘルスや仕事満足感などのウェルビーイングに関する研究は、これまで主に看護領域や高齢者領域で行われており、障害者領域では甚だ少ない。障害者ケアワーカーのメンタルヘルスや仕事満足感に関わる心理社会的要因を解明し、ウェルビーイング保持増進策を検討する必要がある。

## 2. 研究の目的

以上をふまえ、本研究では、身体障害者施設と知的障害者施設の職員を対象とする調査から、以下の点を検討する。

(1) 身体障害者施設、知的障害者施設の職員それぞれに関して、職業性ストレスモデルにもとづき、抑うつ・仕事満足感に関連する心理社会的要因を明らかにする。

(2) 身体障害者・知的障害者の各施設における職員の抑うつの低減・仕事満足感の増大にむけて、支援アプローチを検討する。

## 3. 研究の方法

(1) 2012年度は身体障害者ケアワーカーに関する実証検討を行った。関東地方9カ所

の身体障害者施設職員を対象とする無記名自記式調査(実施数457、回収数313(回収率68.5%))から、抑うつ・仕事満足感に関連する心理社会的要因を明らかにした。調査項目は、抑うつ、仕事満足感、個人要因(年齢、性別、保有資格)、職業性ストレス(日常業務ストレス29項目、量的負担、役割葛藤、役割曖昧)、緩衝要因(ソーシャルサポート)である。分析は、抑うつ・仕事満足感と日常業務ストレスの状況を明らかにし、職業性ストレスモデルにもとづき、抑うつ・仕事満足感それぞれに関わる心理社会的要因(職業性ストレス、個人要因、緩衝要因)について、単変量解析および多変量解析により検討した。

(2) 2013年度は知的障害者ケアワーカーに関する実証検討を行った。神奈川、静岡、埼玉39カ所の知的障害者施設職員を対象とする無記名自記式調査(実施数1475、回収数1110(回収率75.3%))から、抑うつ・仕事満足感に関連する心理社会的要因を明らかにした。調査項目は、2012年度と同様の項目であり(日常業務ストレスの項目のみ、知的障害者施設用に変更)、分析も同様に実施した。

(3) 2014年度はこれまでの結果をふまえて、抑うつ低減・仕事満足感増大のポイントを施設種類ごとに総括し、具体的支援策を組織レベル・個人レベルの両面から包括的に検討した。

## 4. 研究成果

(1) 身体障害者ケアワーカーの抑うつ・仕事満足感に関連する心理社会的要因

抑うつの要因：年齢が若い、介護支援専門員の資格がない、体位・姿勢保持業務あるいは入居者の個人的な趣味・レクリエーション活動支援業務にストレスを感じる、役割曖昧感が高い、役割葛藤感が高い、上司、同僚、家族の各サポートが少ないことが、それぞれ独立的に抑うつを高めていた。また、家族からのサポートは個人的な趣味・レクリエーション活動業務のストレスを緩衝しており、ソーシャルサポートの中でも特に重要であることが示された。

仕事満足感の要因：女性、ヘルパー資格がある、コミュニケーションに関するストレスが少なく、役割曖昧感が少ない、上司からのサポートが多いことが、それぞれ独立的に仕事満足感を高めていた。

(2) 知的障害者ケアワーカーの抑うつ・仕事満足感に関連する心理社会的要因

抑うつの要因：年齢が若い、職員間の連絡、ケア関連会議、起居・就寝（声掛けや誘導）業務にストレスを感じる、役割曖昧感が高い、役割葛藤感が高い、上司からのサポートが少ないことが、それぞれ独立的に抑うつを高めていた。

仕事満足感の要因：年齢が高い、ヘルパー資格がある、役割曖昧感が低い、上司からのサポートが多いことが、それぞれ独立的に仕事満足感を高めていた。

(3) 障害者ケアワーカーの抑うつ低減・仕事満足感増大のポイント

以上で明らかになった、身体障害者施設、知的障害者施設の各施設における抑うつ低減と仕事満足感増大のためのポイントを総括すると、次のようになる。

両施設ともに、抑うつ低減・仕事満足感増大に共通する主な要因は、役割曖昧感の低減、上司のサポートの増加、若年職員への配慮であり、これらが障害者ケアワーカーのウェルビーイング支援の最重点と考えられた。この他、身体障害者施設では、男性職員への配慮、体位・姿勢保持業務、入居者の趣味・レクリエーション活動支援の業務、コミュニケーションに関するストレスの低減、同僚・家族のサポートの増加、知的障害者施設では、職員間の連絡、ケア関連会議、起居・就寝（声掛けや誘導）の業務ストレスの低減があげられた。

(4) 障害者ケアワーカーのウェルビーイング支援策

上記をふまえて、障害者ケアワーカーのウェルビーイング支援策について、組織レベル・個人レベルの両面から包括的に検討した。

身体障害者施設・知的障害者施設ともに、若年職員の個々の業務内容の明確化、キャリアパスが見通せる人事体制の構築、上司によるサポートの充実が不可欠である。そのほか各施設個別には、身体障害者施設では、入居者の趣味・レクリエーション活動支援への外部ボランティア活用、重度障害者の介護技術に関する研修、職員間の交流活動（短時間のブリーフィングやQC活動等）が有効と考えられるが、これらの研修や交流活動への参加時間確保のために業務調整が必要となる。

知的障害者施設では、若年職員の夜勤や早朝対応に関するマンツーマン指導、人事体制

の構築の上で報酬単価等の見直し促進が求められる。

(5) まとめ

本研究では、身体障害者施設と知的障害者施設におけるケアワーカーのウェルビーイング支援策を包括的に検討し、若年職員への配慮、役割曖昧感の低減、上司のサポートの増加が、両施設に共通する最重点課題であることを明らかにした。また、施設種類の違いによる個別的課題についても整理することができた。本知見は、良質な障害者ケアサービスを保障する人材確保をすすめる上で重要な意義を持つものである。

今後さらに、実践現場での若手職員へのヒアリングなどの質的調査によりニーズを詳細に把握するとともに、具体的な支援プログラムを実践し効果評価を行う介入研究が必要である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

香田泰子、武田文、門間貴史、高齢化する知的障害者施設における職員の仕事満足感に関わる労働要因、高齢者ケアリング学研究会誌、5、24-33、2014、査読有  
茨木尚子、社会福祉における支援者支援揺らぐ社会福祉現場で支援者支援をどう考えるか、社会福祉研究、119、2-9、2014、査読有  
茨木尚子、障害者総合支援法 成立に至る背景とその課題、福祉介護テクノプラス、7、1-5、2014、査読有  
茨木尚子、障害者総合支援法 その成立までの経過と課題、総合リハビリテーション、41、723-729、2013、査読有  
門間貴史、武田文、香田泰子、身体障害者施設職員の精神健康に関わる職業要因 高齢化の進行する身体障害者入所施設における検討、高齢者ケアリング学研究会誌、4、11-19、2013、査読有

〔学会発表〕(計11件)

香田泰子、武田文、門間貴史、茨木尚子、知的障害者施設職員における抑うつの関連要因 年齢層別による検討、第79回日本民族衛生学会総会、2014年11月22日、筑波大学（茨城県つくば市）  
門間貴史、武田文、茨木尚子、香田泰子、知的障害者施設職員における仕事満足感と Sense of Coherence、ソーシャルサポ

ートとの関連、第 79 回日本民族衛生学会  
総会、2014 年 11 月 22 日、筑波大学（茨  
城県つくば市）

Monma T, Takeda F, Kohda Y,  
Relationships between depression,  
demographic factors, and sense of  
coherence among the caregivers in  
nursing homes for people with  
intellectual disabilities, The 21st Asian  
Conference on Occupational Health,  
2014.9.3, Hilton Fukuoka Sea Hawk（福  
岡県福岡市）

香田泰子、武田文、門間貴史、朴峠周子、  
知的障害者施設職員の精神健康と労働要  
因（第一報）日常業務およびストレスの  
状況、第 15 回日本健康支援学会年次学  
術大会、2014 年 3 月 9 日、電気通信大学  
（東京都調布市）

門間貴史、武田文、香田泰子、朴峠周子、  
知的障害者施設職員の精神健康と労働要  
因（第二報）抑うつと職業性ストレッ  
サー・ソーシャルサポートとの関連、第  
15 回日本健康支援学会年次学術大会、  
2014 年 3 月 9 日、電気通信大学（東京都  
調布市）

朴峠周子、武田文、門間貴史、香田泰子、  
知的障害者施設職員の精神健康と労働要  
因（第三報）仕事満足感と職業性ストレ  
ッサー・ソーシャルサポートとの関連、  
第 15 回日本健康支援学会年次学術大会、  
2014 年 3 月 9 日、電気通信大学（東京都  
調布市）

千綿かおる、武田文、茨木尚子、門間貴史、  
香田泰子、中道敦子、星野由美、久保田浩  
三、知的障害者施設における定期的歯科検  
診状況と歯科の実態、第 78 回日本民族衛  
生学会総会、2013 年 11 月 16 日、佐賀大  
学本庄キャンパス（佐賀県佐賀市）

門間貴史、武田文、茨木尚子、朴峠周子、  
香田泰子、千綿かおる、身体障害者施設職  
員の抑うつと職業性ストレス・ソーシャル  
サポートとの関連、第 86 回日本産業衛生  
学会、2013 年 5 月 15 日、愛媛県民文  
化会館（愛媛県松山市）

香田泰子、武田文、門間貴史、茨木尚子、  
田宮菜奈子、千綿かおる、水上勝義、朴峠  
周子、身体障害者施設職員のメンタルヘル  
スと日常業務（第一報）日常業務および  
ストレスの状況、第 77 回日本民族衛生  
学会総会、2012 年 11 月 17 日、東京大学  
（東京都文京区）

朴峠周子、武田文、門間貴史、茨木尚子、

田宮菜奈子、千綿かおる、水上勝義、香田  
泰子、身体障害者施設職員のメンタルヘル  
スと日常業務（第二報）抑うつと日常業  
務ストレスとの関連、第 77 回日本  
民族衛生学会総会、2012 年 11 月 17 日、  
東京大学（東京都文京区）

門間貴史、武田文、田宮菜奈子、茨木尚子、  
千綿かおる、水上勝義、朴峠周子、香田泰  
子、身体障害者施設職員のメンタルヘル  
スと日常業務（第三報）仕事満足感と日常  
業務ストレスとの関連、第 77 回日  
本民族衛生学会総会、2012 年 11 月 17 日、  
東京大学（東京都文京区）

〔図書〕（計 3 件）

千綿かおる、医歯薬出版、最新歯科衛生士  
教本 障害者歯科 第 2 版、2014、200（6-8、  
10-12）

茨木尚子、現代書館、福祉労働 139 号、  
現代書館、2013、200（12-24）

武田文、茨木尚子、門間貴史、医学評論社、  
ヒューマン・セキュリティ／ヒューマ  
ン・ケアの視点から、2013、201（41-52）

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

武田 文（TAKEDA, Fumi）  
筑波大学・体育系・教授  
研究者番号：80216902

### (2)研究分担者

田宮 菜奈子（TAMIYA, Nanako）  
筑波大学・医学医療系・教授  
研究者番号：20236748

茨木 尚子（IBARAKI, Naoko）  
明治学院大学・社会学部・教授  
研究者番号：50269354

水上 勝義（MIZUKAMI, Katsuyoshi）  
筑波大学・体育系・教授  
研究者番号：20229686

千綿 かおる（CHIWATA, Kaoru）  
九州歯科大学・歯学部・教授  
研究者番号：60442191